
crimson snow

小羽 朔夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

c r i m s o n s n o w

【Nコード】

N 3 9 4 7 D

【作者名】

小羽 朔夜

【あらすじ】

君の望みを叶えてあげる。この世界を、綺麗にしてあげるから。

（前書き）

途中、それほどではありませんが残酷な描写が含まれます。

苦手な方はお気をつけ下さい。

雪が降る。世界の罪を白く覆い隠す為に。執拗に、念入りに、偽造行為を繰り返す。今日、また世界に染みが増えてしまったから。本当はその白でさえ紛いモノだというのに、そんなモノでも人間は美しいと錯覚してしまう。醜い世界が美しいモノを産み出せるなんて信じてすらいらないだろうに。嗚呼、でも。愚かで醜いモノ同士だからなのかもしれないあと、気が付けば唇が弧を描いていた。僕は冷えきって上手く動かせない右手をそつと見遣る。

全く、彼女にも困ったものだ。綺麗な世界が見たい、だなんて。僕の再三の説得にも応じることなく、彼女はにっこりと笑ってお願いしてきた。その笑みはどんな笑みより美しくて。この世界に彼女のような人がいて、出会えたことに歓喜した。僕と同じモノを見るんでしよう、愛しい貴女？

そういえば誰かがさつき、間違ったことを言った気がするけれど、そんな筈はない。現に。美しい彼女は此処にいるのだから。

既に感覚の失われた右の掌には数える気も失せる程に擦過傷、金瘡が刻まれている。僕が彼女を愛した証がこんなにも色濃く残っている。此れほどまで彼女を想っている自分を誇らしく思えた。

しかし、彼女が望む未来にはまだ遠い。もどかしくて、焦りが見え出した僕に彼女は優しく微笑む。まるで悪魔のように。優しく。穏やかに諭す。焦らないで、でも早めに私を此処から出してね、と。無邪気な彼女に僕はゆっくりと頷くと彼女はまた笑ってくれた。もつと綺麗にしてあげるよ、とまだ何とか動く左手の指先で彼女の唇をなぞる。色の薄い、彼女の唇を綺麗な赤が彩っていた。

そんな彼女を飽きもせず眺めているとふと眠気に襲われた。動けなくなっってはとうしようもないので少し休ませて貰うことにした。

「おい、アレ……」

「上層部に連絡しろ。まだ動けるかもしれないからな。俺達にはアレは無理だ。」

「ええ、13番地の路地裏です。例の男です。はい、はい、分かりました。お願いします。」

現代のジャックと怖れられていた彼は息絶えていた。死因は体全体に無数に散らばる切傷による失血死。特にどのように傷つけたものか、刃渡り25センチはあると思われるナイフが握られていた右の掌から腕にかけての損傷が酷かったという。

彼の隣には若い女性の遺体が置かれていた。人目を惹くとは言えないものの、控え目で大人しそうな女性だった。彼女の方は死後半月は経過していると見られたが、冷たい場所で安置されていたのかそれほど腐敗も進んでいなかった。それより、関係者を悩ませたのは彼女の死因だった。明らかに彼のナイフと傷の形状が違うのだ。

更に彼と彼女の接点も未だ見つかっておらず、また彼の動機も分かっているわけではない。

あったのは、雪の中に咲く、赤い無数の華だけだった。

（後書き）

何を書きたかったかというと、白雪姫なんですが。何故かダーク路線に走りました。謎です。

狂っていても人を愛しながら幻想に満足して生きていくのと、現実に生きるのとはどちらがより正しい生き方なのでしょうか。楽なのは前者ですし、世間一般に間違っているとされるのもまた前者です。

しかし、その認識は本当に正しいのでしょうか。

そついうことを考えながら読んで頂けたら幸いです。

ここまで読んで下さりありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3947d/>

crimson snow

2010年10月10日07時50分発行